

WHC 第7回OB夏合宿記録（2013年8月4～6日）

今年は、関東甲信地方が平年より半月も早く梅雨が明けて7月中に天気の変わり目に入り、一方、新潟を含む北陸から東北地方はいつまでも梅雨が明けずに被害の出るほどの大雨の日も多く、合宿を前にやきもきしていましたが、幸い出発前日の8月3日に北陸～東北の梅雨明け宣言が出されました。

初日、JR長野駅に集合したのは、新幹線組12名、神戸から夜行バスの2名、それにマイカーで来た田上さんを加えた計15名。駅前から、合宿地のペンション「赤倉ユアーズイン」のオーナーの小笠原氏の車と田上車に分乗し、まず目指したのは戸隠神社中社の駐車場（チュウシャのチュウシャ場）。ここでもう一人のマイカー組の小川戸さんと合流し、参加者16名全員が勢ぞろいしました。

今回の参加者（敬称略）は、

1期…大河内、田中

2期…中島

3期…小川戸

4期…菅原（猪間＝サブリーダー）、大竹、田上、徳渕、西海、花田、五十嵐

6期…征木（小幡）、佐藤徹、杉原（綿貫）

8期…齋藤（＝リーダー）、佐藤憲一

1、2期の先輩方の参加を得て、これまでより年次の幅が少し広がりましたが、全員が60代後半から70代前半で括ることのできる前期高齢者集団です。

余計な荷物を車に預けて軽身で歩き始め、まずは小鳥池へ行き、この場にそぐわない奇ッ怪な女性集団を多少の興味は持ちながらも横目で見て通り過ぎ、落葉松林の中の快適な道を歩いて、戸隠連峰を水面に映す鏡池に出ました。ここで木陰を見つけて各自持参のお弁当を広げました。早速湯が沸かされ、齋藤リーダーから味噌



汁、スープ、食後のコーヒー、紅茶が提供され、皆さんからのお菓子類もたくさん出されました。ゆっくり休んでから、今合宿1回目の全員写真を撮って戸隠奥社参道の随神門へ。ここから杉の大木が並ぶ参道を歩き、最後に少し登りがあって奥社へ詣で、合宿が滞りなく終わるよう丁寧にお祈りをしました。

チュウシャのチュウシャ場（しつこい）に戻り、中腹から上がガスる飯縄山や黒姫山の裾を回り、少し遠くに斑尾山を望みながら、約40分のドライブで赤倉の宿に着きました。オーナーは国内外の登山経験が豊富で、20年前に東京から引っ越してきた方。また、このペンションは菅原サブリーダーの定宿でもあります。宿に着いて部屋割の後、赤倉温泉の湯を引いた風呂へ。ペンションといっても「温泉のある小さなホテル」との看板どおり、そこそこ広い浴室のある、やや熱めでかけ流しの天然温泉です。2、3人ずつの部屋も清潔で気持ちのいい宿でした。

18時半、待望の夕食。リーダーの挨拶の中で、来年の夏合宿は8月3日（日）～5日（火）の3日間であること、すでに2、3の候補地の腹案があることが早くも告げられ、乾杯でスタート。ビールで軽くのどを潤してから簡単な自己紹介は、1～8期と現役時代にずれがあるので、お互いを知るいい機会になりました。この日は「スモークサーモンと海老のテリーヌ」に始まる洋食のコース料理で、メインは肉か魚の選択制と超豪華、さらにマンゴープリンデザートからコーヒーまでどれも皆美味しくいただきました。この日の食事メニューに合わせてアルコールの中



心はワインでした。食後は幹事部屋で
大宴会、相変わらず各自持ち寄りの飲
み物、つまみ類は豊富で賑やかな2時
間余り。窓の外の雨音を聞きながら、明
日のハイキングに向けては、やや停滞
ムードの中で床に就きました。

2日目、小鳥の声に目を覚まし、せっかくのかけ流しの温泉泊まりなので、6時の朝風呂から一日を始めました。予想(期待)に反して雨は上がっており、目の前の妙高山の頂上もガスの中に見え隠れしていました。

7時の朝食(この食事もおいしいのですが詳細は略)後、車2台で笹ヶ峰牧場の火打山登山口へ行き、「のんびりグループ」7人と「頑張りグループ」9人に分かれました。ここからしばらくは、高谷池を往復したがんばりグループの記録です。



9時前に登山口をスタート、黒沢を渡ってから、十二曲の急登に入りました。トップを行く田上さんは、そこそこのスピードながら誰も疲れないうペースで歩くので、「田上マジック」として定評があり、加えて「花博士」でもあります。この日も最後まで後れる人はなく順調に歩き、また博士の解説付きで多くの花に出会いました。主な花の名を記しますと、大葉溝酸漿、九蓋草、ナントカ堇、蕎麦菜(岨菜)、御前橘、矢車草、紅葉唐松、岩鏡、延齡草、山荷葉、襦取草、弟切草、山母子、喘息薬種、一薬草、車百合、衣笠草というところ。十二曲を難なく越えると、それまでのブナ林から樹相もオオシラビソが目立つようになり、道も露岩の尾根に変わって、少々歩きにくくなりました。富士見平を過ぎた辺りから、頂上はガスっていましたが山肌の所々に雪を残す火打山が見えました。間もなく目指す高谷池ヒュッテが見えましたが、ここから先の巻き道の長かったこと。笹の根が露出して歩きにくい道、目の小屋が中々近づかないこと40分以上、13時23分、ようやくヒュッテの前で昼食にありつきました。登山口からはほぼ登り一方の4時間余りでした。みそ汁付きおにぎり弁当を夢中で食べてから、高谷池を巡ると、運良くこの山域を代表する可愛い白山小桜に出会えましたし、湿原の端の岩銀杏や深山金梅もきれいでした。昼食と池巡りで1時間ジャスト、下り始めてすぐに雨が降り出したので、急いで雨具を付けました。天気予報どおり、このまま降り続けるかとの懸念も20分で解消し、後は黙々と、時に談笑を交えながら、長い下り道を歩き、17時40分、のんびりグループに温かく迎えられて、薄暗くなりかけた登山口に戻りました。



この間、のんびりグループは小笠原氏のガイドで夢見平を散策しました。こちら、メンバー中約2名の声が響いているとピッチを速め、声が途切れるとピッチを落とすという、氏の絶妙のペース配分に騙されながら、かなりのアップダウンのある道を歩いたようです。なお、のんびりグループの名称は、実態を示しておらず、「散策」というにはかなり厳しいので、「がんばりグループB」とすべきとの意見が出されました。もっと楽なのんびりコースを設定せよということではなく、がんばりBに名称を変えたうえでそれにふさわしいコース設定にせよとのご意見と受け止めたので、次回以降の企画に反映されることと思います。

ペンションに戻ると間もなく大粒の雨が降り出しました。この日の夕食は和食。長時間歩いた後とあってビールが進み、刺身、天ぷら、煮物はもちろん、ずわい蟹からごま豆腐やもずくなど食べきれないほどの料理に舌づつみを打ちました。次いでこの日の食後は中宴会。話題は、山道具の考察、ヒトの生理現象、日本の医療制度など、議論は白熱を帯びましたが、記憶も記録も必要のない内容でした。



3日目、天気予報は悪く、いつ降り出すか分からないという空模様のため、3コースに分けて「信越トレイル」を歩くというプランが変更され、全員で同じコースを歩くことになりました。

車2台で、途中、斑尾のビジターセンターに寄ってから、希望(のぞみ)湖へ行きました。16人、合計年齢約1,120歳が一行で歩く様子は、ある意味、壮観といえば壮観でした。もっとも、どなたかは「この年齢でこの人数のグループだったら、男女比が逆の方が普通だ」と言っておられました。私の経験でも、そのとおりと思います。森じゅうに響く蝉しぐれと鋭く切り込むようなホトトギスの鳴き声が交じる中、東山魁夷が描いた絵そのもののような風景を眺めながら1時間で湖を一周しました。次いで、車で沼ノ原湿原へ移動しました。こちらで蝉と共鳴していたのはウグイスで、蝶やバッタの昆虫類もたくさん見られました。小笠原氏が「思ったよりずっと花が多い」と言う湿原を1時間強で回りました。前日の夢見平で、花に関しては物足りなかったがんばりBの方々も満足されたようです。花の名を挙げればきりがありませんが、代表として白髭草を記録しておきます。また、ここでは蕨摘みにいそしんだ方もおられました。



帰路、向日葵、桔梗、とまと、玉蜀黍の畑を車窓見学し、農産物直売所に立ち寄ってからペンションに戻ると間もなく、またまた小雨となりました。汗を流してさっぱりしてから打ち上げパーティ開始。短い合宿の思い出話をはじめ楽しく語らった2時間、勿論オーナー心尽くしの料理もおいしかったのですが、ここでは喉に沁み、心に染みた地元・越後のお酒の4銘柄を記しておきます…「八海山」、「ア張鶴」、「能鷹」、「天と地と」。

梅雨明けとの期待に反して、天気は決して良くはありませんでしたが、行動中の雨は幸い最小限にとどまり、3日間ともそれなりのハイキングを楽しむことができました。リーダー、サブリーダー、田上さん、初参加の先輩方はじめ皆さん、どうもありがとうございました。来年は8回目、またよろしくお願ひします。

(夏合宿サブリーダー補:五十嵐昭)